

「太公望」人形衣裳修理前と修理後

「八戸三社大祭の山車行事人形衣裳修理業務報告書 太公望人形衣裳」
女子美術大学染織文化資源研究所(令和7年3月)より



修理前（令和2年撮影）

- ①上着 ②腰巻 ③袴 ④前掛け ⑤飾り布 ⑥帽子
⑦帯（棉入り） ⑧数珠 ⑨^{わたいれ}棉入れ長着、紐 ^{ながぎ} ⑩^{ししゅうおび}刺繍帯
⑪肉布団



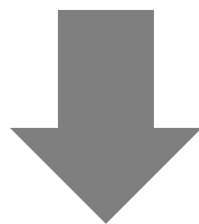
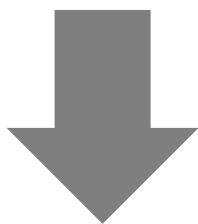
修理後（令和7年撮影）

- ①上着 ②腰巻 ③袴 ④前掛け ⑤飾り布 ⑥帽子
 ⑦帯（棉入り） ⑧数珠 ⑨^{わたいれ}棉入れ長着、紐 ^{ながぎ} ⑩^{ししゅうおび}刺繍帯
 ⑪肉布団

① 上着

銀襷の平銀糸が外れ、生地破けが多く見られた。

補填用の羽二重とクレペリン(薄絹)で銀襷をはさみこむようにして修理した。



② 腰巻

裾を中心に銀欄の平銀糸が外れていた。

銀欄の生地の上からクレペリン(薄絹)をかけて、すべて留め直した。



③ 袴 *腰巻の下に着ているもの

裾部分の白い綾子地が外れ、棉が飛び出していた。

全体を水洗いし、外れていた生地と飛び出していた棉を元に戻した。



④ 前掛け

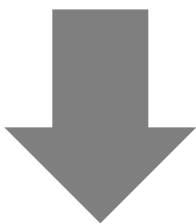
幅の大きな金通しの周囲を紫根や藍で染色した裂でフリル状に縁取りされ、裏には白の綸子地が使用されていた。

経糸の欠損によりキレが生じており、補填修理した。フリル状の生地は褪色や欠損があったため、新規素材で補填修理した。



⑤ 飾り布

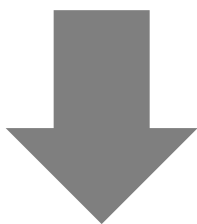
前掛けと共通する素材が使われている。裂が褪色や欠損しており、新規素材で補填修理した。刺繍部分は裏打ちされていたため、装潢修理した。



⑥ 帽子

薄手の縮緬を金通しの縁で囲んだ冠のような形状となっている。

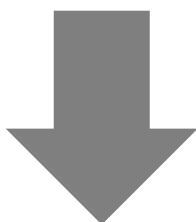
縮緬生地が破け、中綿が飛び出していたため元に戻した。帽子内側は藍染の和紙が貼りつけられていたため、装潢修理を行った。



⑦ 帯(棉入)

刺繍帯の代わりに、腰まわりに巻く「帯」として使っていた。生地は青地の銀襷で、腰巻の生地と似ている。

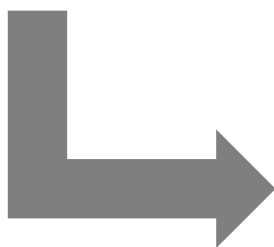
刺繍帯を復元新調したため今後は使用しないが、中棉と生地を分け、中棉は新たに肉布団(腰まわり用)として作りかえた。



⑧ 数珠

絹製の房部分の汚れとヨレが激しかったため、加湿整形し、1本ずつ手で梳いて整えた。

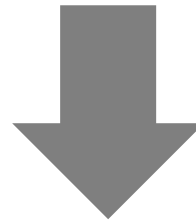
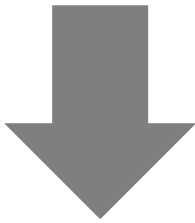
本来は「武田信玄」の左手に握られていたものであるため、今後は「武田信玄」に着装する。



⑨ 綿入れ長着、紐 *上着の下に着ているもの

水色の木綿地で衿、袖口、振(袖口から裾にかけての開いた部分)に白の綾子地が取り付けられており、全体に綿が入っている。

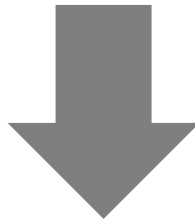
水洗いし、綿の偏りを直した。



⑩ 刺繍帯 *近年使用されていなかったもの

台裂が鉄媒染された生地だったことから状態が非常に悪く、金糸の刺繍部分以外は崩壊し、近年は使用されていなかった。

素材調査及び技法調査にもとづき、復元新調した。



⑪ 肉布団

*衣装の下に着ているもの

人形に厚みやふくらみをもたせるために使用している肉布団は、棉が飛び出していたり、棉がよれてふくらみがなくなっていた。

破けている生地は穴をふさぎ、棉を戻した。使用による劣化防止のため、肉布団を入れる保護袋を木綿生地で製作した。



肉布団 修理前



肉布団 修理前



肉布団 修理前



肉布団 修理前



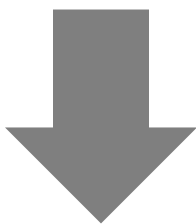
肉布団 修理前



肉布団 修理前



肉布団 修理前



肉布団 修理後



肉布団 修理後



肉布団 修理後



肉布団 修理後



肉布団 修理後



肉布団 修理後



肉布団 修理後